

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

～考え動き 人とつながり 未来に向かう子～

150 周年記念メモリアル、ありがとうございました

5月25日（土）の150周年メモリアルには、多くの保護者や地域の方々にお越しいただき、子ども達の授業を参観いただいたり、イベントと一緒に楽しんでいただいたり、ご協力いただきありがとうございました。天候にも恵まれ、みんなで力を合わせて、充実した時間が過ごせましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。私自身、校長室の一角にしまってあったアルバムを中心に、北小歴史展の準備をしていく中で、いろいろと発見したり感じたりしたメモリアルでした。

学校は、その時代の影響を受けながら、形や場所を変え続けてきました。しかし、いつの時代も、子ども達の笑顔は変わらず、そして、その子ども達を学校で学ばせたいという地域や保護者の方々の思いは脈々と受け継がれていると感じました。北小校区の子ども達の未来に向かって、学校が果たして行く役割の重要性を改めて胸に刻み、職員一同日々取り組んでいく所存です。これからもご協力、ご支援のほどよろしくお願いします。

今回は、PTA の皆様に楽しいイベントを企画していただきました。次は、児童会の番です。運動会で保護者の方々と一緒になった競技を考えています。



つばめつばめ 泥がすきなる つばめかな （細見綾子）

青垣町出身の俳人、細見綾子さんの俳句です。

今、北小の軒下でもたくさんのつばめ達が巣作りに励んでいます。私は、5月に第1子を出産しました。初めての慣れない授乳やおむつ交換等に心が折れそうになった時、ふと軒下の巣で懸命に子育てをしているつばめ達が目に入り、「はぁ、私もがんばらねば！」と励まされたのをよく覚えています。

そこで、自分の身近にいるつばめのことを調べてみました。

今、北小学校で巣作りしているつばめは、「こしあかつばめ」であるとわかりました。私の記憶にある「つばめ」とは別の種類で、腹が赤く尾が短く、巣も細長いです。

つばめは、なぜ、東南アジアに渡り、また日本に戻って来られるのでしょうか。それは、地磁気を感じ取ることができるからだそうです。「ほほう、体内に方位磁石を持っているんだな」と感動しました。あんなに小さいのにすごいですね。

では、つばめは同じ巣に戻ってくるのか？つばめに「お帰り」と言いたいところですが、調べてみると、同じ巣に戻ってくるのは15%くらいだそうです。同じ場所に帰って来ても近くの別の巣を利用したり、つばめの寿命が1～2年だったり、必ずしも同じつばめではないようです。でも同じつばめかもですよ。そう思う方が心が弾みます。「こしあかつばめ」は他の種類のつばめより日本に戻ってくるのが少し遅いので、雀に巣を乗っ取られることもあるそうです。そう言えば、そんな姿を学校でも見かけました。大変ですね。

子ども達にも全校集会で紹介しました。「つばめが低く飛ぶと？」と問いかけると「雨が降る」とすぐに答えが返ってきました。さすが北っ子！つばめは昔から田んぼの虫を食べてくれる鳥として、また、人がよく通る場所に営巣することから商売繁盛の鳥として、大切にされてきました。子ども達には、つばめの巣作りや子育てをそっと見守ろうねと伝えています。

